

埋没林：発見の経緯

1983 年に、大田市の小豆原地域で水田の区画を整備していた工事作業者が、地下約 1 メートルの場所に非常に大きなスギの木が埋もれているのを見つけた。木を引き抜いて除去するために掘り続けたが、5 メートル掘っても根元に到達しなかった。同じころに作業者が撮った写真がここにある。2 人の男性がくぼみの中に立っていて、側には青い布が掛けられた巨木の幹がある。この発見の重要性に気付かなかった作業者は、木の一部を単純に切断して穴を埋め、表面上はわからないようにした。

1990 年に教員であり火山の研究者でもあった松井整司（1933 年 - 2012 年）が偶然写真を見て、木のあった場所を確かめようとした。手作業で木を見つけることは困難であったが、最終的には大規模な発掘調査が行われた。1998 年には重機を使って発掘作業が行われ、初の巨木が発見された。発掘は進み、多くの木が現れ、当時森全体が失われたことがわかった。